

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成26年 6月24日

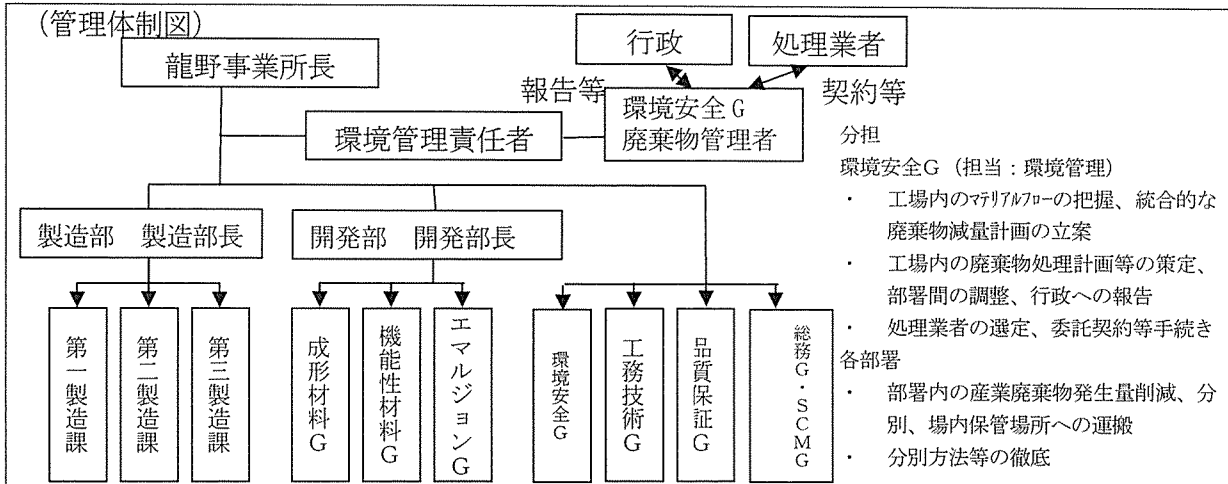
兵庫県知事 殿

提出者 昭和電工株式会社 龍野事業所
住 所 兵庫県たつの市揖保町揖保中251の1
氏 名 龍野事業所長 前田 廣幸
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 0791-67-1111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	昭和電工株式会社 龍野事業所
事業場の所在地	兵庫県たつの市揖保町揖保中251の1
計画期間	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	プラスチック製造業[1635]
②事業の規模	135.4億円
③従業員数	168人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 (平成 25年度) 実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	木屑	金属屑	ガラスコンクリート屑
	排出量	1842.5	170.2	1142.9	2407.8	65.8	41.1	136.0	0.9
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	木屑	金属屑	ガラスコンクリート屑
	排出量	1800	200	1100	2400	70	40	150	3
①現状	(これまでに実施した取組)								
	1) 廃水の削減、含水率低減 (汚泥) 2) 有償物への転換、発生量の削減 (廃プラスチック) 3) 収率向上 (各製品) 4) 分別回収による有償物への転換 (廃プラ)								
②計画	(今後実施する予定の取組)								
	1) 廃水の削減、含水率低減 (汚泥) 2) 有償物への転換、発生量の削減 (廃プラスチック) 3) 収率向上 (各製品) 4) 分別回収による有償物への転換 (廃プラスチック) 5) リサイクル率アップによる排出量の削減化								

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) プラスチック等を分別し、有償物への転換、汚泥のセメント原料化、リサイクル率アップ、汚泥含水率低減化の促進。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) プラスチック等を分別し、有償物への転換、汚泥のセメント原料化、汚泥含水率低減化の促進、リサイクル率アップによる排出量の削減化。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（平成 25年度）実績】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	木屑	金属屑	ガラスコンクリート屑	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(これまでに実施した取組)									
②計画	【目標】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	木屑	金属屑	ガラスコンクリート屑	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(今後実施する予定の取組)									

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（平成 25年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	木屑	金属屑	ガラスコンクリート屑
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0	0	1120.0	2407.7	0	0	0	0
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	1331.0	145.6	1120.0	2407.7	3.0	41.1	0	0
(これまでに実施した取組) 1) 含水率低減（汚泥） 2) 焼却処理（廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック、汚泥） 3) 廃熱回収 4) 分別回収									
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	木屑	金属屑	ガラスコンクリート屑
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0	0	1100	2400	0	0	0	0
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	1300	150	1100	2400	3	40	0	0
(今後実施する予定の取組) 1) 含水率低減（汚泥） 2) 焼却処理（廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック、汚泥） 3) 廃熱回収 4) 分別回収									

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（平成 25年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	木屑	金属屑	ガラスコンクリート屑
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0
(これまでに実施した取組)									
—									
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	木屑	金属屑	ガラスコンクリート屑
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0
(今後実施する予定の取組)									
—									

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（平成 25年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	木屑	金属屑	ガラスコンクリート屑
	全処理委託量	510.8	24.6	22.9	0.1	62.8	0	136.0	0.9
	優良認定処理業者への処理委託量	268.5	24.6	21.7	0.1	13.9	0	136.0	0.9
	再生利用業者への処理委託量	268.5	24.6	0	0	34.1	0	136.0	0.9
	認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	268.5	24.6	0	0	34.1	0	0	0.9	
(これまでに実施した取組)									
1) 最終処分場での処理量削減									
2) 再生利用業者への委託処理									
3) 廃熱回収・発電を行なう業者への委託									

		【目標】							
		産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	木屑	金属屑
②計画	全処理委託量	500	25	20	0	67	0	150	3
	優良認定処理業者への処理委託量	300	25	20	0	67	0	150	3
	再生利用業者への処理委託量	300	25	0	0	67	0	150	3
	認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	300	25	20	0	67	0	150	3
	(今後実施する予定の取組) 1) 最終処分場での処理量削減 2) 再生利用業者への委託処理 3) 廃熱回収・発電を行なう業者への委託 4) 汚泥、廃油の排出量削減								
	※事務処理欄								

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産廃・製造処理フロー

